



中部の

エネルギーを 築いた

人々

奥三河開発の先駆者・大橋正太郎

—大野電力、大野銀行、鳳来寺鉄道などを創業—

奥三河地方中心の新城市大野町は、江戸時代、直轄領として鳳来寺から秋葉山本宮を結ぶ秋葉街道と愛知県豊橋市から長野県飯田市を結ぶ国道151号線(豊橋、新城を經由し現在の東栄町別所に通ずる街道を別所街道と呼ばれる)が交差する宿場町として栄えた。

明治時代に入ると、伊勢神宮へ奉納されていた絹の赤引糸で知られ、養蚕が盛んになって繭の集散地へと発展した。製糸工場ができ、養蚕の町となるにつれ金融機関が必要になり、1896(明治29)年に大野銀行が設立され、金融面での奥三河の中心になった。

1912(明治45)年に大野電気製材合資会社が設立され、大正から昭和時代の初め大野電気がこの地方に電気を供給した。また、1923(大正12)年に鳳来寺鉄道が開通(現：JR飯田線大海駅～三河川合駅)、1932(昭和7)年に田口鉄道が開通(当時：JR本長篠～三河田口)し、沿線の鳳来寺や温泉の観光開発を進めた。

今月号は、奥三河開発の先駆者として代々名家の資産家で山林事業の財産をもとに大野銀行、大野電気、鳳来寺鉄道の社長を勤め活躍した大橋正太郎を紹介する。



大野銀行、大野電力、鳳来寺鉄道を創立した初代大橋正太郎

旧大野銀行本館・土蔵(現:大野宿鳳来館)

大橋正太郎の父、大橋茂左衛門は1833(天保4)に生れ、奥三河の木材に注目し積極的に山を買い、植林を進め奥三河屈指の山林家、大資産家となった。当時の時事新聞社が明治27年以来の全国長者番付を作成した時に三河の中で唯一載って全国で紹介された。また、村長や教育の振興、公益のために尽くし地元の人からの人望を集め敬慕され、1918(大正7)年に亡くなった。

これらの姿勢を引き継いだ大橋正太郎は、地元の大野町周辺地域での商取引を円滑に行

うため、1877(明治10)年に開業した豊橋の



大野宿鳳来館(国登録有形文化財)

第八国立銀行に次いで、1896(明治29)年に三河地方で初の民間銀行、大野銀行を設立した。

大野町に本店を置き、続いて新城、豊橋、田原、豊川、牛久保、国府、赤羽に支店を開設するなど東三河全域を営業圏とした。その営業姿勢は堅実を旨として金融面での中心となった。

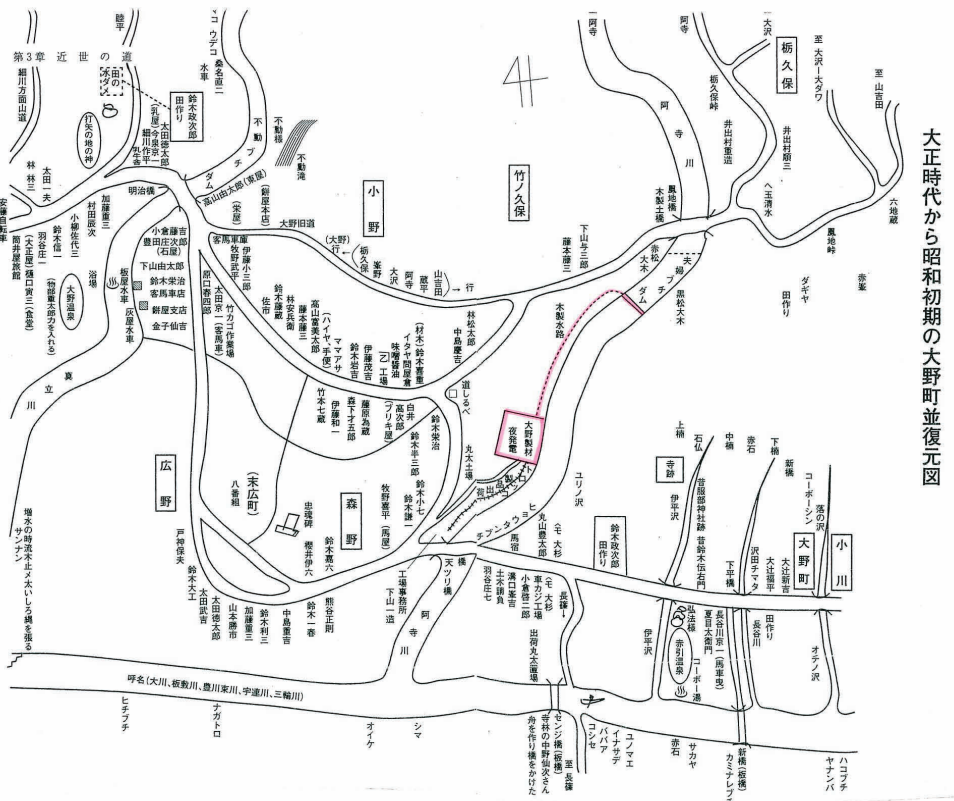
本店二代目社屋は1925(大正14)年に鉄筋コンクリート造り2階建てで建設された。こ

の社屋の設計と施工は名古屋の志水建築業務店で、志水正太郎は岡崎銀行本店(大正6年)や名古屋陶磁器会館(昭和7年)など多くの近代建築を手がけた。終戦後、東海銀行、東三河信用組合、豊川信用金庫の三河大野支店、最後に豊川信用金庫鳳来支店三河大野出張所の社屋となった。2008(平成21)年に国登録有形文化財(建造物)に登録され、現在、大野宿鳳来館として喫茶・ギャラリーなどで利用されている。

大野電気株式会社

地元を流れる豊川水系阿寺川の水を動力として水車を造る計画が出され1872(明治5)

年に堰堤を完成させた。そして精米工場、綿糸工場、酒造工場、そして1908(明治41)年



大野町並復元図(阿寺川右岸に大野製材夜発電と記載)



阿寺川右岸に残る大野電気製材所の跡

に大野製材所が建てられた。

1912(明治45)年、大橋正太郎らの出資により大野電気製材合資会社(資本金：5,000円)が設立された。

大野製材発電所は、①所在地：大野町字滝の久保 ②出力：7kW ③有効落差：56.7尺 ④原動機：ペルトン式、15馬力 ⑤発電機：7kVAで、この製材所は昼間に製材工場として運転し、夜間に発電機を回し、町内に電灯を供給した。

鳳来町史交通史編に大正時代から昭和初期の大野町並復元図をみると、阿寺川の右岸に大野製材所があり、堰堤(ダム)から木製水路が記載されている。現在、上流に大野頭首工が建設されたため発電所跡は水没したが、堰堤跡は大野町上水道の取水口として利用されている。

大橋正太郎は1919(大正8)年に三輪電気株式会社

(資本金：10万円)を設立、社長に就任した。そして翌年、大野電気製材合資会社の電灯供給事業を譲り受け、会社の名称を大野電気株式会社と改称し、三輪川に葭ヶ滝発電所を建設した。この発電所はJR柿平駅に隣接したところにあつたので柿平発電所とも呼ばれた。

葭ヶ滝発電所は、①所在地：南設楽郡長篠村大字豊岡字葭ヶ滝 ②出力：28kW ③有効落差：

41.5尺 ④水車：76馬力(藤田鋳業製)⑤発電機：60kVA(川北製)であった。この発電所の新設によって大野製材発電所は廃止された。

大野電気は発電以降好調な業績を続け供給力不足になり、矢作水力より30kWの融通を受け合計58kWの供給力を持つ電気事業者になった。その後、電力国家管理の進展に伴い小規模電気事業者の統合の趣旨に従って、昭和14年に中央電力に譲渡、中部配電を経て中部電力に承継された。



簡易水道大野浄水場

鳳来寺鉄道株式会社

JR東海飯田線は三遠南信(豊橋～辰野間)を結ぶ総延長195.7kmの路線である。元は豊川鉄道、鳳来寺鉄道、三信鉄道、伊那電気鉄道の4つの私鉄が1943(昭和18)年に統合、国有化されたものである。4私鉄は初めから電気鉄道として敷設され、当時電気鉄道では全国最長であった。

大橋正太郎は豊川鉄道と鳳来寺鉄道に関わるが、参考として簡潔に飯田線全線の略史を説明する。



鳳来寺山のブッポウソウをデザインした三河大野駅

(1) 豊川鉄道(現豊橋駅～現大海駅・28km)

1896(明治29)年、豊川稲荷参拝人の輸送などを目的に設立され、明治33年に全線が開通した。大橋正太郎は豊川鉄道の監査役に就任した。

(2) 鳳来寺鉄道(大海駅～三河川合駅・17km)

1921(大正10)年に設立され、大正12年に全線開通した。大橋正太郎が社長に就任し、地元の観光開発など積極経営を図った。この沿線は山間部にあり沿線人口が少ないにもかかわらず、鳳来寺や湯谷温泉利用の観光客、また社長が赤引ラジウム鉱泉を開発するなど順調に発展した。

(3) 伊那電気鉄道(天竜峡駅～辰野駅・80km)

1907(明治40)年に伊那電車軌道が設立され、辰野～飯田間の敷設工事が始まり、1927(昭和2)年に開通した。伊那谷の鉄道敷設事業の特筆すべきことは電灯電力供給事業が並行して計画され、鉄道より電気事業の規模が大きく電気鉄道の赤字を補填した。

(4) 三信鉄道(三河川合駅～天竜峡駅・67km)

1927(昭和2)年に設立され、昭和4年に工事をはじめ、着工以来8年を要して昭和12年に開通した。

この三信鉄道の完工で4社の路線が接続、全線開通し、昭和12年、4社にまたがる直通列車が一日6往復運転された。

(寺澤 安正)